

新しい時代を元気にします  
*Empower for new days*

明電舎CSR報告書

2010

Meidensha Corporation CSR Report



**MEIDEN**

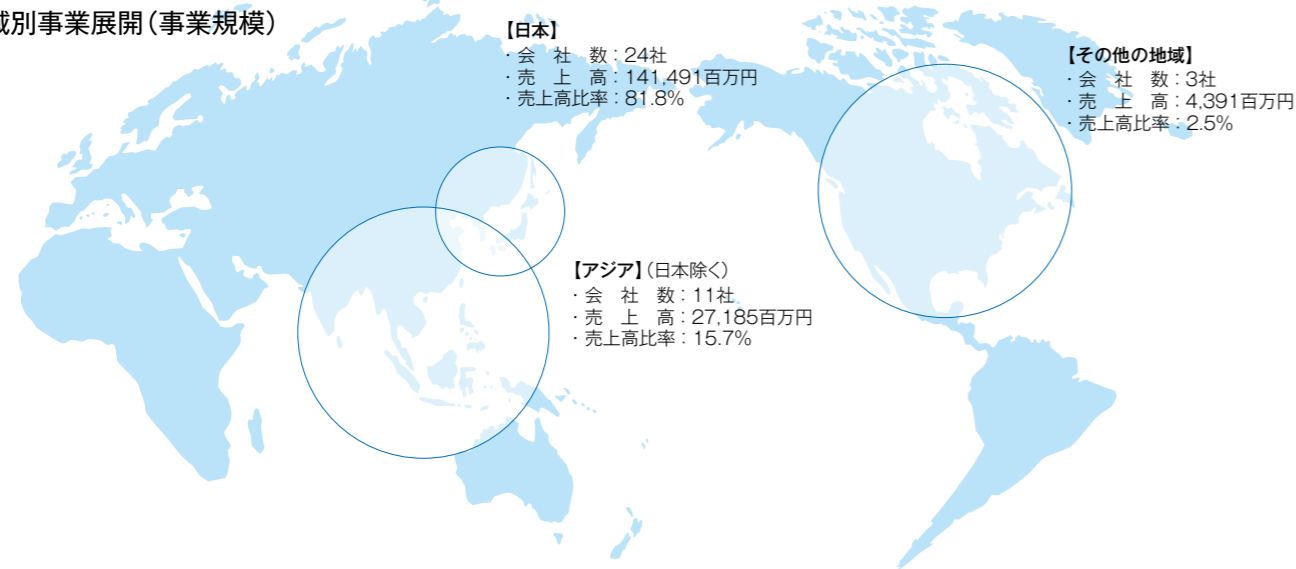
# 新しい時代を元気にします Empower for new days

“Empower”には、「元気づける」、「活力を与える」という意味があります。  
明電舎の100年を超える技術と実績に裏打ちされた、  
確かな提案力、高い問題解決能力によって、人や社会のお役に立ちたい。  
そして、新しい時代をもっともっと元気にするパワーであり続けたい、と考えます。

## 会社概要 (平成22年3月31日現在)

|       |  |            |                  |
|-------|--|------------|------------------|
| 会社名   | 株式会社 明電舎                                   | 連結売上高      | 1,730億6,700万円    |
| 創立    | 大正6年6月1日(創業 明治30年12月22日)                   | 連結従業員数     | 7,144名           |
| 代表者   | 取締役社長 稲村 純三(いなむら じゅんぞう)                    | 株主数        | 27,391名          |
| 本社事務所 | 〒141-6029 東京都品川区大崎2-1-1<br>ThinkPark Tower | 発行済株式総数    | 2億2,763万7,704株   |
| 資本金   | 170億7,000万円                                | グループ連結子会社数 | 38社(国内24社、海外14社) |
|       |  | 上場証券取引所    | 東京、大阪、名古屋        |

## 地域別事業展開(事業規模)



## 社会システム事業分野

社会インフラの構築に関連する事業です。電力品質や省エネルギーなどに関する各種ソリューションサービスや、電力会社・官公庁・鉄道・道路・民間施設等の分野に発電・送電・変電・配電等に関する各種電気機器の製造販売を行っています。  
また、自治体の上下水道分野には各種処理装置とそのプロセス制御、情報通信網の整備等に関する製品の製造・販売を行うほか、浄水場の維持管理業務受託など環境に関するソリューションサービスを展開しています。

## エンジニアリング事業分野

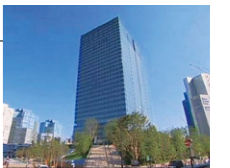
当社納入製品のメンテナンスを中心として、設備の長寿命化や省エネルギー対策などの提案、設備遠隔監視などのサービスを提供しています。

## 産業システム事業分野

製造業やITなど一般産業で使用される製品システムに関連する事業です。民間産業分野に自動車試験用システム、物流システム等を提供するほか、繊維機械やエレベータ等の製品用途向けにモータやインバータなどの電動応用製品の製造・販売を行っています。  
また、情報・通信分野では産業用コンピュータやネットワークシステムなどコンポーネント製品の製造・販売を行っています。

## 不動産事業分野

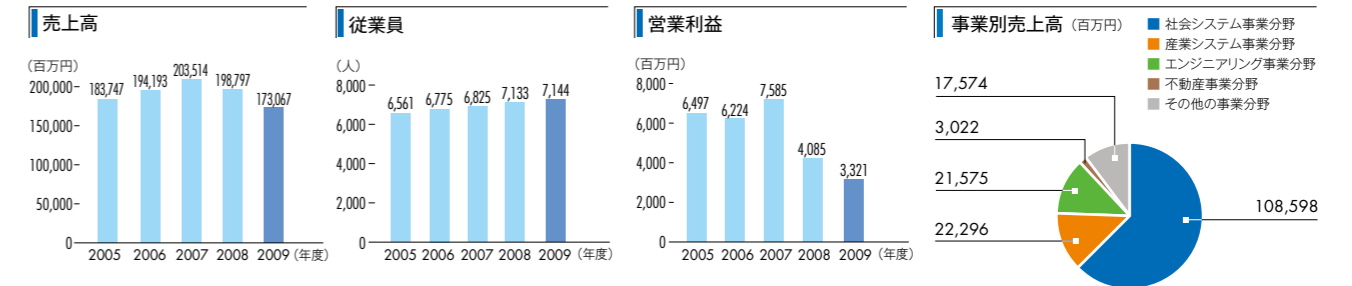
ThinkPark(東京・大崎)をはじめとする保有不動産の賃貸を行っています。



## その他の事業分野

事業分野を問わない販売会社、従業員の福利厚生サービス、経理業務受託会社などが含まれています。

## 経済性情報 (平成22年3月31日現在) [連結]



| 項目                                    | ページ |
|---------------------------------------|-----|
| トップメッセージ                              | 02  |
| 明電グループの事業紹介                           | 04  |
| <b>特集</b><br>明電グループの社会に貢献する「ものづくり」とは? | 06  |
| トピックス                                 | 10  |
| <b>CSRの基盤</b><br>明電グループのCSR           | 12  |
| コーポレート・ガバナンス                          | 14  |
| コンプライアンス/リスクマネジメント                    | 15  |
| <b>環境報告</b><br>環境経営の推進                | 16  |
| 目標と実績                                 | 17  |
| 環境ビジネスの推進                             | 18  |
| 地球温暖化防止に向けた活動                         | 20  |
| 事業活動に伴う環境負荷の全体像                       | 23  |
| <b>社会性報告</b><br>お客様とともに歩む             | 24  |
| お取引先様とともに                             | 26  |
| 株主・投資家とともに                            | 27  |
| よりよい職場を目指して                           | 28  |
| 地域の皆様との良好なコミュニケーション                   | 30  |

## 編集方針

明電グループは、「社会から必要とされる明電グループとなるため、社員一人ひとりが企業理念を実践すること」がCSRの基盤であると考えています。  
CSR報告書2010では、事業活動を通じたCSR活動をご紹介しますとともに、各活動分野の進捗状況を報告しています。  
中期経営計画「POWER5」のスローガンは「明電グループの挑戦—ものづくり“POWER”で社会に貢献—」。グループ社員一人ひとりが主役の「メーカーとしての総合力」で社会に貢献し続けます。  
2000年より発行してきた「環境報告書」は、2007年からタイトルを「CSR報告書」と改め、社会の一員としての企業の役割・責任に対する活動報告のさらなる充実を図っています。一人でも多くのステークホルダーの方々に明電グループの活動を知っていただければ幸いです。

## 免責事項

本レポートには、明電グループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時における計画や見直し、経営方針・経営戦略にもとづいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報にもとづいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なるものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了承いただきますようお願いいたします。

## 報告書の対象範囲

**対象期間**  
2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日)の活動実績を中心に作成しました。  
**対象範囲**  
原則として明電舎およびグループ会社の活動を報告しています。なお、人事関連データは明電舎単独、環境パフォーマンスおよび環境会計は明電舎と主となるグループ会社31社を対象としています。

## 参考にしたガイドライン

- GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版」
- 環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」

## 用紙への配慮(間伐に寄与する紙の使用)

CSR報告書2010に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に関与しています。

## 発行日について

- 今回の発行 2010年7月
  - 次回発行予定 2011年7月
- なお、より多くの皆様にお読みいただける様、インターネットにおいても公開しています。  
■ CSR報告書2010  
www.meidensha.co.jp/pages/csr/csr-2010.html  
■ 明電舎Webサイト  
www.meidensha.co.jp/

## CSR報告書に関するお問い合わせ先

広報・IR部 広報室  
〒141-6029  
東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower  
TEL.03-6420-8100  
FAX.03-5745-3027



# 社会に貢献する ものづくりを追求し続けます

## 企業理念の実現こそが、我々の社会的責任を果たすことにつながる

明電グループのCSR活動の目的は、企業理念を実現すること。すなわち、品質の高い製品やサービスをご提供することで、お客様の課題解決をお手伝いし、お客様に喜んでいただく。そして、この事業活動を通じて社会的課題の解決に積極的に寄与し、より豊かで住みよい未来社会の実現に貢献することです。

つまり、ものづくりメーカーである我々は、ものづくりを通していかにお客様に喜びを与えられるか、いかに明電舎の製品を使って良かったと言ってもらえるか、ということが最大の使命であり、そのことを通じてお客様をはじめとしたステークホルダーとの信頼関係を構築することが我々が果た

すべき社会的責任であると考えています。

これは、我々が創業以来、一貫して取り組んできたものづくりの精神であり、これからも明電舎を支えていくものであると思っています。

## メーカーとしての総合力をさらに強化し、社会に貢献

2009年度、明電グループは社会に貢献する“ものづくり企業”として着実な前進を図り、ものづくり力を強化するために中期経営計画「POWER5」をスタートさせました。

我々が考える社会に貢献するものづくりとは、お客様に喜んでいただけるものをいかに開発し、作り、販売し、長く使っていたいただけるかということが基本にあります。明電舎が提供

する製品やサービスはプラントやシステムなど大きなものからプリント板やモジュールなどの小さなものまであり、これらは作って販売して終わりというわけにはいかないのです。ものを作り、それがお客様に喜ばれ、社会の役に立っているということが大切になります。では、そのために何が必要かというと、当然、それを作り出すための力として、これまで培ってきた技術力や開発力、そして人財力ということになります。これらが、我々のメーカーとしての総合力であると思っています。どれかが欠けてもいけませんし、どれかに偏ってもいけません。ひとつの新しいものを作り出すところから、この世の中で役割を果たし、製品寿命がきて、消えていくところまでの一連の流れの中できちんと明電舎の製品として構築していけることが、ものづくり力の強化であると考えています。

## ものづくり力で環境に貢献することが最大の社会的責任

私たちの暮らす地球は今、地球温暖化をはじめ、エネルギー資源の枯渇、水資源の不足など、さまざまな問題を抱えています。我々はこれまで築いてきた技術や製品の提供を通じて、これらの課題解決に貢献することが最大の社会的責任であり、担うべき役割は大きいと考えています。

明電舎は電気自動車用モーターインバータ事業、風力発電製品事業など、事業を通じて低炭素社会に貢献できる製品を提供してきましたが、今後はさらに開発から販売・稼働・廃棄段階に至るすべてのプロセスの中で、ひとつのバリューチェーンとしてバランスよく活動を行っていかねばならないと考えています。つまり、ものづくりそのものが、環境というキーワードの中できちんと貢献しなければならないと考えています。

また今後、世界各国で進められているスマートグリッド技術の研究などにおいても我々の経験と実績を活かし積極的に取り組んでいきたいと思っています。これらは、我々電機メー

カーがどうしてもやりとげなければいけない使命であると自負しております。

## 従業員自らが考えて行動できる組織を目指して

こうした事業活動での社会への貢献に伴い、今後重要度が増してくるのはCSR活動を担う従業員の存在です。これまで明電舎では、CSRとは何か?の基本概念を従業員に浸透させることに注力してきましたが、今後は従業員自身が社会のさまざまな課題を認識し、その課題を解決するために自らの仕事や日常の中で何をすればよいのかを考えて行動するようにならなければなりません。そのためにも、明電舎を今後どうしていきたいか、明電舎は何によって企業として成り立っているのか、それを全員が考えるような雰囲気や企業風土を醸成していきたいと思っています。

世界経済の混乱は、当社グループにも大きな影響を与えていますが、我々が掲げるCSRの基本的な考えやものづくりへの思いが変わることはありません。

これから「お客様が何を必要としていて、何をご提供することでお客様に喜んでいただけるのか、安心していただけるのか、そして、お客様はそれを使ってどのように社会や世の中に貢献していけるのか」というところまでを考えたものづくりを追求し続け、社会に貢献していきたいと思っています。

2010年7月  
株式会社明電舎  
取締役社長

稲村 純三



# 明電グループはものづくりで環境や豊かな社会の実現に貢献し続けます。

## 変電所

電力の安定供給を支えています



発・変電集中監視制御システム

変電プラント

ソレスター

## 水力発電所

電気をつくるのに活躍しています



水車発電機

## 浄水場

浄水場の電気設備と維持管理で、市民生活を支えています



監視制御システム

維持管理、運転管理業務

## 医療施設

安定した電源を供給し、人にやさしい介護機器を提供しています



コージェネレーションシステム

天井走行式リフトパートナー

## 電気自動車

低炭素社会に貢献します

EV用モーター&インバータ



## 工場

工場の安定稼働を支えています



瞬時電圧低下補償装置

太陽光発電システム



産業用コントローラ μPIBOC

## 下水処理場

下水処理場の維持・管理もサポートしています



下水処理総合監視システム

## 公園

災害時の電力や水の供給、情報収集を支えています



移動電源車



Water Cube



災害情報支援システム REALFIELD GEO

## 新幹線

安全で快適な鉄道の運行に必要な電源の安定供給を支えています



電鉄変電所



新幹線保護・制御盤

## 風力発電

発電機製造技術と豊富なメンテナンスで低炭素社会に貢献します



風力発電システム



カスタマーセンター

## 工場・倉庫

工場内の効率的な物流に貢献します



無人搬送車

## 自動車工場

工場で路上走行のシミュレーションが可能です

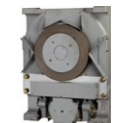


ダイナモメータ

## ビル

電力を効率的に使いエレベータを支えます

エレベータ用モーター&インバータ



エレベータ用モーター



エレベータ用インバータ

明電グループの  
社会に貢献する  
ものづくりとは？

Corporate Philosophy

明電グループ企業理念

企業使命

より豊かな未来をひらく

私たちは、より豊かで住みよい未来社会の実現に貢献するため、  
新しい技術と価値の創造にチャレンジし続けます。

提供価値

お客様の安心と喜びのために

私たちは、お客様の安心と喜びのために、環境への配慮と丁寧なサポートを徹底します。  
そして、品質の高い製品・サービスを通じて、  
お客様の課題解決や夢の実現をお手伝いします。

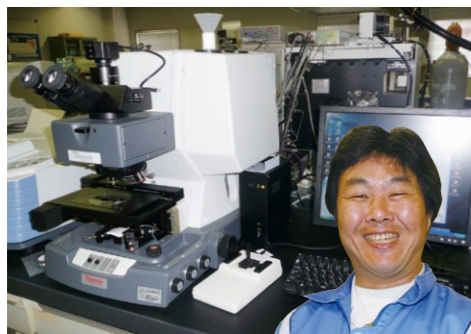
中期経営計画「POWER5」

明電グループは、2009年度から5か年の中期経営計画「POWER5」を策定し、  
ものづくり力(Productivity)、創造力(Originality)、グローバル展開力(Worldwide)、  
環境問題貢献力(Environment)、人財力(Resources)の5つの力を結集し、  
社会に貢献する“ものづくり”企業を目指します。

# 明電グループのものづくり サービスまでを含めた 一人ひとりが“もの

# は研究開発・生産・販売・ 「メーカーとしての総合力」。 づくり”の主役です

## 研究



基盤技術研究所  
材料研究部  
蔵田 保幸

### 明電舎の“ものづくり”を下支えする、 陰の立役者として

基盤技術研究という仕事は、見えないところで明電グループの製品や技術を支えています。ものづくりを下支えする存在として、自分の携わる業務が明電グループを、ひいては社会全体を支えているのだと思うと、必要不可欠な業務であることを誇りに感じます。実験や評価を繰り返しながら、製品や技術の信頼性を証明する地道な仕事ではありますが、こうした研究分野も明電グループの“ものづくり”の一端を担っているのです。研究者にとって重要なのは、将来を見通し、新しい技術に挑戦していくこと。今後は、そうした想いも含め、技術を継承しながら後進の育成に注力していきます。

## メンテナンス



明電環境サービス株式会社  
営業部  
山田 勉

### 静かな情熱を持って、 社会生活を守り続けていく

生活を守る公共インフラは、「正常に機能して当たり前」という前提があります。24時間365日しっかりとライフラインを確保することが、メンテナンスという仕事では最も大切な責任です。そのため、様々な機器が壊れないように点検したり、異常が発生したりした際には迅速に対応しなければいけません。明電舎の製品や技術を活かし、社会生活を守り続けていくためにも、向上心を持って教育や資格取得を推進しています。ヒューマンエラーの許されない責任の重さもありますが、見えないところで社会に貢献しているという想いが、自らの仕事に満足感を与えてくれます。

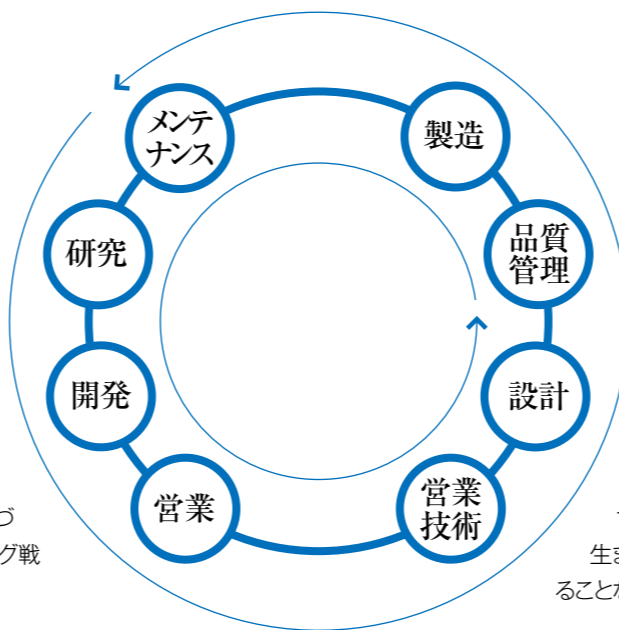
## 開発



製品開発本部  
パワートリ製品開発部  
小倉 和也

### 果たすべき使命は、 お客様の期待を超える製品開発

お客様の抱える「困った」を解決すること——それが、製品開発の果たす役割の本質です。営業や技術の担当者の意図に応える製品を開発するのはもちろん、生産部門の調整や部品メーカーへの工程監査といった全体把握も重要な仕事です。常に心掛けているのは、「自分は明電舎という看板を背負っている」という自負。プレッシャーを楽しみながらそれをモチベーションに変える余裕を持って、少しでもお客様の期待を超えるような製品を作りたいと思っています。明電舎の「ものづくり総合力」を底上げするためにも、今後はもっとマーケティング戦略を強化していきたいですね。



### “人とのつながり”を大切に、 常識を打ち破るものづくりを

設計というのは、ひとつの分野を突き詰めて深く知る専門家。営業技術の作成した仕様指示に従い、電気回路や構造の設計を行ったり、盤の形を作り上げて各種設備を機能させたりするのが仕事です。常に意識しているのは、“安く、早く、良いもの”を設計し、社会に役立つ製品を作ること。それを実現するには、社内での活発な情報共有と人とのつながりが欠かせません。常識を覆すような新しい発想も、コミュニケーションを大切に初めて生まれると思っています。今後も、“人の手で作るものづくり”を忘れることなく、明電舎の総合力を発揮していきたいと思えます。

## 設計



システム装置工場  
変電・制御電気設計部 平田 信明(左)  
変電・制御構造設計部 高橋 久雄(右)

## 営業



動力・搬送システム事業部  
動力計測システム営業部 伊東 拓哉(左)  
MEIDEN AMERICA INC. 高橋 慶至(中)  
明電プラントシステムズ株式会社  
工事第二部 白鳥 宗一(右)

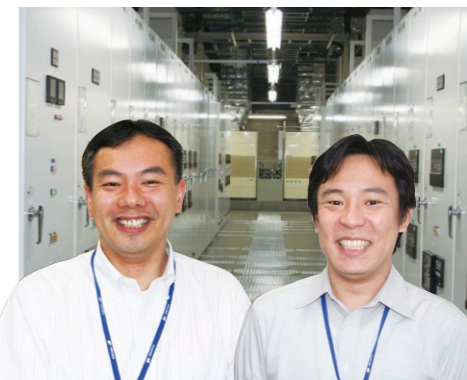
### 夢をかたちに—— “ものづくり”の醍醐味はそこにある

営業は、“ものづくり”の総合プロデューサーです。お客様に一番近い場所から、ニーズを聞き出して製品開発に伝えたり、納品後も継続的にフォローしたりするのが私たちの使命。トラブルが発生した時などは俊敏な対応で解決するなど、常に誠意と誇りを持ってお客様と接しています。この仕事の醍醐味は、お客様とともに夢を語り合えること。全工程の管理や調整を含め、最終的な納品まで一貫して仕事ができるところにやりがいを感じます。お客様とともに明電舎の全員が一丸となって夢をかたちにしていくのが、明電舎の“ものづくり”だと実感しています。

### 社会と環境に貢献する “ものづくり”が仕事の誇り

明電舎の“ものづくり”の輪をつなぐ、それが、営業技術の仕事です。お客様の声をもとにご要望に合った製品を企画・図面化するという、ニーズの具現化が主な役割です。業務の幅が広く、交渉のために海外を飛び回ることもしばしばですが、責任感を持って働けることも仕事の面白みのひとつです。大規模な電気設備や先端技術で社会を支える明電舎。それだけに、思い描いていた製品が完成した時の達成感は一ひとしおです。また、明電舎の製品や技術によって、地球温暖化防止の担い手として社会に貢献できると考えると、自らの仕事に誇りと大きなやりがいを感じます。

## 営業技術



エネルギーシステム事業部 発電技術部  
彦部 浩司(左) 石橋 太郎(右)

## コンポーネント工場始動



インバータ製造ライン

明電グループは中期経営計画「POWER5」の基本方針として、既存の事業を強化しながら、将来の低炭素社会に貢献できる量産・量販型のコンポーネント製品の比率を高めていくことを掲げています。「コンポーネント工場」は、その目標達成に向けて「生産力の強化」を図るために開設されました。

2008年10月に沼津事業所の東に隣接していたジヤトコ株式会社様沼津工場の敷地と建物を譲り受け、改修・改装を進めてきました。



真空コンデンサ製造ライン

2009年8月には第一陣としてインバータの生産ラインを移転し、海外輸出用やエレベータ用など中容量・大容量インバータのほか、電気自動車「アイ・ミーブ」用のインバータの組み立て、モータと合わせた検査のラインも始動しました。

また、2009年2月には真空コンデンサの製造ラインを移設し、稼働を開始しました。真空コンデンサは、電気エネルギーを蓄積する電極部分をセラミックの真空容器内に実装した高性能な蓄電デバイスです。製造に高い技術力を必要とすることから、メーカーは世界でも数社しかなく、当社は日本で唯一の真空コンデンサメーカーです。

当社は既存工場からこれら戦略製品の生産を移転し、生産設備の増強などにより増産とコストダウンを図り、コンポーネント製品の拡販を目指します。



コンポーネント工場外観

## 水道事業維持管理業務を開始



維持管理業務

当社は福島県会津若松市様より2010年度から4年間の浄水場の運転管理、および送・配水施設維持管理などの業務を受託し、水道管路業者会津若松市水道サービス株式会社と2社で「株式会社 会津若松アクアテクノ」を設立し、4月1日から業務を開始しました。

会津若松市様では、4つの主な浄水場を通じて市内に水道水を配水していましたが、水道事業の運営費用を軽減するとともに、民間技術の導入により技術の伝承と発展を図るため、業務の一部を民間業者に委託することになりました。

今回の委託では、水道法に定める「第三者委託」という、法的な責任も民間に移管する高度な委託方式が採用され、事業者の選定では、提案内容のほか能力や経験が厳しく審査されました。

当社は、すでに12カ所で行っている維持管理業務のノウハウを活かし、中期経営計画「POWER5」の既存重電事業の新規展開として新たなサービス事業の拡大を目指します。

## 新製品 EV・HEV用評価システム「EVREVO」の販売開始



低慣性ダイナモメータ



EVREVOカタログ

当社はEV・HEV用評価システム「EVREVO(イーブレボ)」の発売を開始しました。

本製品は、2009年7月29日株式会社小野測器と締結した「業務及び資本提携に関する契約」に基づき、両社として初めての共同開発製品となります。

今後、地球環境問題の解決に向けて環境対応車の開発は、グローバルに一段と加速することが見込まれます。本システムはお客様のニーズ・コンセプト段階から総合試験・製品化まで、お客様の開発プロセスに応じて、リアル(実物)とモデル(仮想)の両面で評価することができます。これにより、お客様のEV・HEV開発にかかる開発期間を大幅に短縮することが可能となります。今後も当社のコア技術である機械・制御技術をもとに、低慣性ダイナモメータを中心に「EVREVO」シリーズの開発を加速します。

当社は今後も計測・解析から建設工事までの総合的な「ものづくり力」を通じて、お客様に安心と喜びをご提供する環境対応車開発用試験機の開発を強化し、地球環境への貢献を目指していきます。

## 太陽光発電用パワーコンディショナ新シリーズ「SPシリーズ」発売開始



SPシリーズ



1MWパッケージシステム

当社は、太陽光発電用パワーコンディショナの新シリーズを開発し、販売を開始しました。

当社はこれまで、大容量パワーコンディショナ「SUNGENECシリーズ」を販売し、多くのお客様にお納めしてきました。

この度、新たに国際規格であるIEC規格にも対応した世界最高水準変換効率を実現した「SPシリーズ」を開発し、まず250kWシステムの販売を開始しました。国内のみならず依然旺盛な導入が続いている欧州や、急速に市場が拡大している中国、今後の拡大が期待できるアジア・中東向けにも積極的に展開していく予定です。

また、当社は独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)が稚内で行っているメガソーラ実証検証プロジェクトに参画しており、今回このSPシリーズを採用した世界初の「1MW(メガワット)パッケージシステム」を開発し、同プロジェクトに納入しました。

「1MWパッケージシステム」は、250kWパワーコンディショナ4台に制御システムと変圧器を1つのパッケージに集約し、直接6kV配電線に接続できる画期的なシステムで、今後のメガソーラ計画にさまざまなメリットをご提供します。

# 明電グループのCSR

創業以来110余年の歴史の中で積み重ねてきた社会的責任の実践を、もう一度明確な形で認識し、企業価値をより一層高めていくために、明電グループは、2006年4月から「CSR経営」に取り組んでいます。

## 明電グループの考えるCSR

明電グループの考えるCSR活動は、「社会から必要とされる明電グループとなるため、社員一人ひとりが企業理念を実践すること」です。CSR活動の開始とあわせて再構築された明電グループ企業理念は、「品質の高い製品・サービスをご提供することにより、お客様の課題解決をお手伝いし、お客様に喜んでいただきたい。そして、この事業活動を通じて地球環境問題など社会的課題の解決に積極的に寄与し、より豊かな未来社会の実現に貢献することで、社会的責任(CSR)を果たしていきたい。そのために私たちはチャレンジし続けなければならない。」という思いを表現しています。この価値観をグループ全体で共有し、実践することがCSR活動そのものと考えています。また、社会から必要とされる明電グループになるためには、全てのステークホル

ダーの満足度を高めていくことが必要になります。明電グループは、ステークホルダーとの対話を通じて、その役割を果たしていけるよう、CSR活動を進めていきます。

**明電グループ企業理念**

**企業使命**

**より豊かな未来をひらく**

私たちは、より豊かで住みよい未来社会の実現に貢献するため、新しい技術と価値の創造にチャレンジし続けます。

**提供価値**

**お客様の安心と喜びのために**

私たちは、お客様の安心と喜びのために、環境への配慮と丁寧なサポートを徹底します。そして、品質の高い製品・サービスを通じて、お客様の課題解決や夢の実現をお手伝いします。

## 明電グループ従業員へのCSR啓発

### CSR談話室 社内ニュースで毎月放映!

当社グループでは月に一度、映像による社内ニュース<sup>\*</sup>を放映しています。グループ社員に、より一層CSRを身近なものにしてもらうため、2009年11月より、新たに「CSR談話室」というコーナーを設けました。環境・人権・コンプライアンスなど毎回テーマを変え、明電グループのCSRについてわかりやすく伝えています。



CSR談話室

<sup>\*</sup>グループ従業員のみ閲覧可能

### CSR表彰制度の新設

CSR表彰は、ステークホルダー満足向上のため、永年にならぬ鋭意努力し、明電グループ企業価値の拡大につながる功績をあげたグループ・個人を表彰するもので、2009年度より新設しました。

2009年度は第1号として、社会システム事業部 電鉄技

術部 池田広人専任部長が、お客様満足度向上に対する高い貢献度が評価され選ばれました。池田専任部長は当社の鉄道技術者の代表として、国が推進する「鉄道技術標準化活動」、「鉄道技術の国際規格化」に参加。その技術力は、鉄道事業者やメーカーの枠を超えて高く評価されており、2009年10月、国土交通省から「標準化活動貢献者」として表彰されています。

### Voice

国内・国際標準化は地味な仕事ですが非常に重要です。最近、欧州による国際規格化攻勢と日本の攻防がテレビ等で報じられていますが、鉄道システムにおいても同様です。私は、国内外鉄道の社内業務経験を活かし、欧州との相違点指摘・国際規格(IEC)原案の修正提案などを行ってきました。引き続き日本の鉄道のため最大限の努力をしたいと思えます。



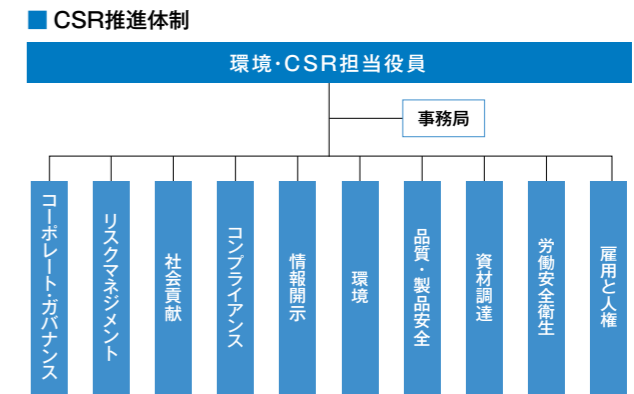
社会システム事業部  
電鉄技術部  
池田 広人

## CSR経営の推進と実績・計画

明電グループでは、環境・CSR担当役員の指揮のもと、CSRにかかわる10の推進テーマを掲げて活動を展開しています。各推進テーマでは、主担当部門を中心に具体的な活動計画を策定し、組織横断的な委員会活動などを通じて積極的な推進活動が行われています。事務局では、各推進テーマの計画と実績をとりまとめ、PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルにより活動を推進するとともに、明電グループ全体にCSRの意識を浸透させるための啓発を行っています。

2009年度から取り組んでいる中期経営計画「POWER5」においても、「CSR経営の推進」を基本方針のひとつとして定め、CSRを経営戦略として推進し、社員一人ひとりが行

動文化として日常的にCSR活動に取り組んでいる状態を目指しています。



### 2009年度の主な成果と2010年度の主な計画(抜粋)

| 項目        | POWER5の主な計画        | 2009年度の主な成果   | 2010年度の主な計画  |   |
|-----------|--------------------|---|--|---|
| マネジメント    | CSRマネジメント          | <ul style="list-style-type: none"> <li>CSR推進体制の強化</li> <li>CSRに関する情報発信の拡充</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>CSR表彰制度の運用開始</li> <li>グループ報やイントラネットを活用した啓発活動の強化</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ会社におけるCSR活動の強化</li> <li>会社諸制度との連携の強化</li> <li>グループ報の活用などによる情報発信の強化</li> </ul>                          |
|           | コーポレート・ガバナンス       | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な情報管理の実現</li> <li>グループ全体の遵法と効率的な経営の実現</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティの社員への周知徹底とキーマン育成のための教育ツールの開発に着手</li> <li>「官公需営業に対する研修」の実施</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ e-Learning の実施</li> </ul>   |
|           | コンプライアンス・リスクマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス意識の維持・向上</li> <li>明電グループのリスク管理方針・定義の明確化</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス情報交換会の実施(26拠点で約1,000名参加)</li> <li>グループ会社コンプライアンス委員会との意見交換の実施</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>海外グループ会社コンプライアンス通報体制の整備</li> <li>コンプライアンス情報交換会の継続と充実(20拠点で400名参加)</li> <li>災害に備えたBCPベーシックプランの確立</li> </ul> |
| 社会性報告     | お客様                | <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様ニーズの収集と分析レベルの向上</li> <li>明電グループ品質保証体制の構築と品質向上活動の推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様ニーズ情報の分析結果・事例のまとめと社内への紹介</li> <li>ヒューマンエラー分析の精度向上に向けた指導の実施</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様ニーズ収集の強化(3,000件以上)</li> <li>量産部門における品質管理の強化</li> <li>ヒューマンエラー防止教育の実施</li> </ul>                         |
|           | 株主・投資家             | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切・適時な情報開示の実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報公開の適切かつ遅滞のない実施</li> <li>IRミーティングの強化</li> <li>決算説明会の内容の充実</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>経営トップ主導によるIR活動の推進</li> <li>個人投資家への情報提供の充実</li> </ul>   |
|           | 取引先                | <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン調達推進</li> <li>明電グループへの調達方針の周知徹底</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「グリーン調達ガイドライン」見直し</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「グリーン調達ガイドライン」の改定とサプライヤーへの徹底</li> <li>国内グループ各社での調達方針等の運用体制構築</li> </ul>                                    |
|           | 従業員                | <ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成の強化</li> <li>ワークライフバランスの充実</li> <li>障がい者雇用の拡大</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>階層別研修の充実</li> <li>メンタルヘルス教育の実施</li> <li>障がい者採用活動の実施(障がい者雇用率1.95%)</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務系を対象とした製品技術基礎教育の実施</li> <li>長時間残業削減と休暇取得の推進</li> <li>特例子会社新設による障がい者採用の推進</li> </ul>                      |
| 環境報告      | 地域・社会              | <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動や市民活動への参加促進</li> <li>各地域における社会貢献活動の維持・向上</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への積極的な参加</li> <li>「ものづくり教室」「ふれあい音楽教室」の開催</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への積極的な参加</li> <li>小学校「ものづくり教室」「ふれあい音楽教室」の開催</li> </ul>   |
|           | 環境                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境ビジネスの展開</li> <li>環境配慮型製品の開発</li> <li>環境対策の強化</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンビジネス分科会の発足</li> <li>新製品グリーン化率の向上(53%)</li> <li>ISO14001適用範囲の拡大(支社支店)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>製品環境貢献目標の設定と行動計画の策定</li> <li>環境マネジメントシステムの見直し</li> <li>環境コミュニケーション施策の立案と実施</li> </ul>                      |
| コミュニケーション | 情報開示・コミュニケーション     | <ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーへの情報提供の充実</li> <li>Webサイトの内容拡充</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>Webサイトの内容拡充</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>マスメディアを通じた情報発信の強化</li> <li>外国語による情報提供の拡充</li> </ul>  |



# コーポレート・ガバナンス

明電グループでは、公正で透明性が高く、迅速で効率的な企業経営に努め、業務の適正を確保する体制の整備を行っています。

## 明電グループのコーポレート・ガバナンス体制

### 基本姿勢

明電グループは、企業理念を実現するためには、企業としての自律と自治の確保が不可欠と考え、2006年5月の定時取締役会において「業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針」を策定し、コーポレート・ガバナンスの強化を進めています。

#### 業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針

- 1 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- 2 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- 3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- 4 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 5 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- 6 企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 7 監査役を補助する使用人に関する事項
- 8 監査役を補助する使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 9 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- 10 その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制

### 施策の実施状況

明電舎は、2003年6月より執行役員制を導入し、あわせて取締役会の機能強化を図り、取締役会が有する「経営の意思決定および監督機能」と「業務執行機能」とを分離し、前者を取締役に付与し、後者を代表取締役および代表取締役から権限委譲された執行役員に付与しています。これにより、取締役会は明電グループ全体の視点に立った経営意思決定と経営全般を指揮監督する役割責任を担っています。

また、取締役会を構成する取締役8名のうち2名を社外取締役としており<sup>\*</sup>、業務執行に対する監督機能を充実させ、コーポレート・ガバナンスを強化しています。

取締役会により選任された執行役員は、取締役会が決

定する明電グループ経営方針に従い、代表取締役から権限委譲された範囲での特定の業務執行における役割責任を担い、代表取締役の業務監督を受けながら、機動的な業務執行を行っています。

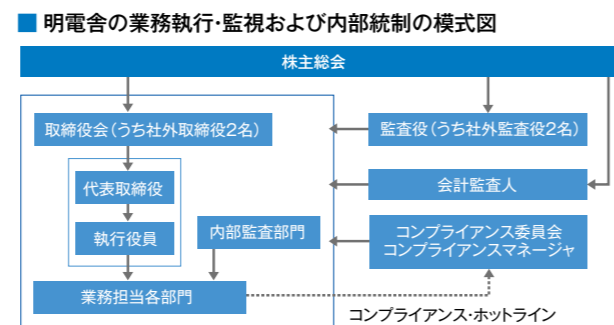
さらに、明電舎は監査役制度を採用しており、各監査役(4名のうち2名は社外監査役)は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門、その他各部門等と意思疎通を図り、取締役会その他重要な会議に出席し、業務・財務の状況の調査などを通じ、取締役の職務遂行の監査を行っています。

また、監査役会を支援する直属のスタッフ組織として監査役室を設置しています。

上記に加え、内部監査部門として経営監査部を設け、明電舎およびグループ会社における業務の有効性・効率性に関する状況、財務報告の信頼性、さらに関連法令等の準拠状況について監査を実施しています。

金融商品取引法の施行により2008年度から適用が義務付けられている財務報告に係る内部統制評価への対応については、2007年2月に公表された金融庁の財務報告に係る内部統制の「実施基準」に準拠して策定した基本方針のもと、明電舎および明電グループの内部統制システムを整備・運用してきました。その有効性については、経営監査部が独立評価部門として明電グループ全体の評価を実施しています。

<sup>\*</sup>2010年6月25日現在



# コンプライアンス／リスクマネジメント

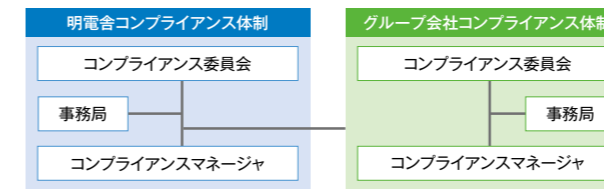
明電グループでは、コンプライアンス活動をCSR活動の基礎として位置づけ、法令順守はもとより、社会規範・倫理をも捉えた活動をしています。また、さまざまなリスクへの対応を強化すべく、リスク項目の点検、リスク管理体制整備に取り組んでいます。

## 明電グループにおけるコンプライアンス活動

### コンプライアンス体制

明電グループのコンプライアンス体制は、明電舎およびグループ会社ごとのコンプライアンス委員会が構成され、相互に連絡を取り合いながら活動を展開しています。コンプライアンス委員会は、コンプライアンス活動の方針決定、啓発活動、コンプライアンス通報にかかわる事柄への対応、および発生したさまざまな事象に対し見解を示し、ルールをつくることをミッションとし、各職場から選任されたコンプライアンスマネージャを中心に行っています。

#### ■ 明電グループ コンプライアンス体制



### コンプライアンス情報交換

コンプライアンス意識の維持・向上と各職場における現場の声を把握するため、2009年7月から10月にかけて、全国26箇所の営業拠点でコンプライアンス情報交換会を実施しました。2009年度はコンプライアンスマネージャ以外の人も参加し、約1,000名の人とのコミュニケーションを図りました。委員会側から全社のコンプライアンス活動状況、説明および独占禁止法を主とした法務教育を行い、参加者からは職場の状況、委員会への要望等を受けました。参加者からの要望は2010年度の活動方針に反映させました。

### コンプライアンス通報制度

コンプライアンス通報制度は、コンプライアンス・ホットラインと公益通報窓口があります。コンプライアンス・ホットラインは社内のポータルサイトより匿名で通報ができます。公益通報窓口は社内外に窓口を設け、外部窓口は弁護士事務所に依頼し、より一層の透明性確保を図っています。

通報窓口寄せられた情報は、コンプライアンス委員会として調査を行い、通報された内容の事実が確認された場合

は必要に応じて弁護士とも相談しながら対策を実施しています。2009年度はコンプライアンス・ホットラインおよび公益通報窓口とも法令違反に関する通報はありませんでした。

### コンプライアンス教育

2009年10月に取締役・執行役員・部門長が独占禁止法、不正競争防止法に関する講義を弁護士から受けました。

従業員向けには、人権週間にあわせて、各職場のコンプライアンスマネージャが中心となり、ディスカッションを行いました。

### リスクマネジメント

明電グループではさまざまなリスクへの対応を強化すべく、リスク項目の点検、リスク管理体制整備に取り組んでいます。

2009年度は、新型インフルエンザへの本格対策を行う専任の対策チームを始動させ、5月に発生した新型インフルエンザでも、いち早く従業員の感染を防止するための対策を実施しました。また、秋に予想された第2波の発生に備え、各部門の新型インフルエンザ事業継続計画の整備を進めました。さらに、より毒性の強い新型インフルエンザ発生に備えて、社長を本部長とした緊急対策本部を組織して全社行動指針を確認し、全従業員分の備蓄品も完備しました。

また、東海地震をはじめとした地震への対策を強化するため、震災事業継続計画の整備を推進します。その一環として、2009年度より検討してきた、従業員の震災時等の罹災状況や新型インフルエンザ発生時の罹患状況を確認するための「安否確認システム」の導入を決定し、2010年度内に本格稼働できるよう、作業を進めています。

このような活動を通して、当社の抱えるさまざまな企業リスクの一層の低減を図り、安定した企業体質の構築を目指しています。



緊急対策本部会議の様子

# 環境マネジメント

明電グループは、環境配慮型製品の開発をはじめとする、地球環境保全に役立つ製品・技術を積極的に社会に提供することで環境経営に取り組んでいきます。

**2009年度注力した取り組み**

- ① ISO14001の支社支店への拡大
- ② 製品環境貢献の取り組み
- ③ グリーン製品開発の強化・拡大

**明電グループ 環境基本理念**

明電グループは「人間のため、社会のため、そしてこの地球をより住みやすくするために貢献する」ことを環境基本理念とし、循環型社会の形成と企業の持続的発展を目指して、環境経営に取り組めます。

**明電グループ 環境行動指針**

- ① 新製品、新技術の開発を推進し、広く世界に提供する事で地球温暖化防止に積極的に貢献する。
- ② 部材の調達から、廃棄に至るまでの全ライフサイクルにおいて環境影響評価を行い、グリーン製品の設計、開発に努める。
- ③ 全ての事業活動に係わる環境負荷を低減するために、省エネルギー、廃棄物の3R推進及び有害物質の排出削減に努める。
- ④ 自主基準を設定し、環境関連法、条例及びその他の要求事項を順守すると共に汚染の防止に努める。
- ⑤ 環境管理体制を確立し、計画(P)、実施・運用(D)、点検(C)、マネジメントレビュー(A)を回して継続的改善を図る。
- ⑥ 環境教育、広報活動などを実施し、全従業員の環境経営の理解と環境意識の高揚を図る。
- ⑦ 環境への取組みを社内外に公開し、広くステークホルダーとのコミュニケーションを推進する。

2008年6月30日  
株式会社明電舎 取締役社長  
**稲村 純三**

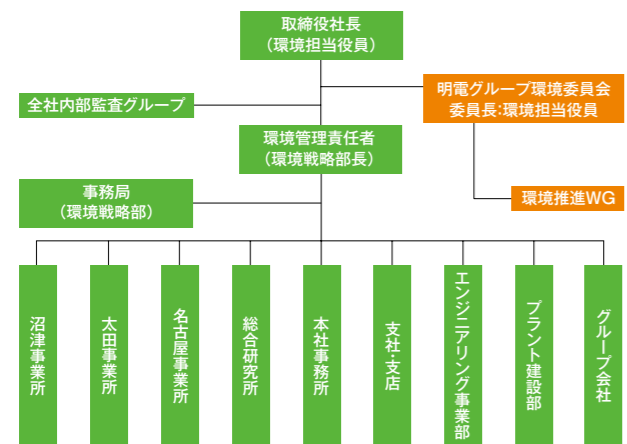
## 明電グループの環境マネジメントシステム強化

### 体制の強化

明電グループ環境管理体制の特長は、トップマネジメントに社長、環境管理責任者に環境戦略部長、および内部監査グループを組織し、明電グループでPDCAを回し継続的改善を推進する体制であることです。

また、明電グループ環境委員会は、マネジメントレビュー、緊急事態発生時の対応、および環境推進WG(ワーキンググループ)の報告を審議する環境最高決議機関です。

#### 明電グループ環境管理体制



### ISO14001の認証取得状況

明電グループ全体で環境経営を推進するため、ISO14001の統合と拡大を進めています。2009年度は、認証範囲を支社支店に拡大するため、キックオフ会議および支社支店教育を実施しました。また、第三者機関による認証審査が行われ、適用範囲の拡大が承認され、全サイトにおいてISO14001の構築および認証取得を達成することができました。今後は、環境負荷の大きいグループ会社へと拡大していきます。



認証審査

#### ISO14001の認証取得状況(2009年度)

| 登録名                 | 認証範囲   | 有効期限       | 認証日        |
|---------------------|--|------------|------------|
| 明電グループ              | 沼津地区/名古屋地区<br>甲府明電舎/太田地区<br>総合研究所/本社事務所<br>支社・支店 | 2010/12/25 | 1998/2/24  |
| プラント建設部             | プラント建設部  | 2013/1/19  | 2000/12/23 |
| エンジニアリング事業部         | エンジニアリング事業部                                      | 2012/7/31  | 2003/7/31  |
| 明電舎(杭州)<br>電気系統有限公司 | 杭州   | 2011/4/6   | 2008/4/7   |

# 目標と実績

明電グループでは、環境活動において年度ごとに目標を設定しています。2007年度からは明電グループ環境委員会を立ち上げ、より一層の環境マネジメントシステムの強化を図りました。今後も目標と実施計画に沿った環境経営に取り組んでいきます。

## 中期経営計画POWER5の目標と2009年度の実績

### 基本方針・コンセプト

低炭素社会を実現するため、地球環境保全に役立つ製品と技術で社会に貢献するとともに、環境マネジメントシステムを維持・拡大し、戦略的環境経営を推進します。

#### 目標

| 環境活動                             | 中期目標  |
|----------------------------------|---|
| <b>1.地球温暖化防止の推進</b>              |   |
| (1)事業活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減 | 2013年度 売上高CO <sub>2</sub> 原単位32%削減(1990年度比) |
| (2)低公害車導入の推進                     | 2010年度 20台/年 導入                             |
| <b>2.廃棄物3Rの推進</b>                | 2010年度 廃棄物リサイクル率98%                         |
| <b>3.化学物質対策の推進</b>               |   |
| (1)VOC放出量削減                      | 2013年度 VOC放出量40%削減(2000年度比)                 |
| (2)製品含有化学物質の管理強化                 | 2011年度 新製品RoHS対応完了(対象製品)                    |
| <b>4.環境配慮設計の推進</b>               |   |
| (1)グリーン製品の拡大                     | 2011年度 新製品グリーン化率100%                        |
| (2)グリーン調達の推進                     | 2010年度 グリーン調達率60%(関係会社含む)                   |

### ② グリーン製品開発の強化・拡大

地球温暖化防止(省エネ)、省資源(3R)、汚染防止(化学物質管理)に配慮した環境にやさしい製品のうち、当社基準「製品環境アセスメント」に合格した製品を「グリーン製品」と定め、開発強化・拡大を推進しています。

### ③ 製品含有化学物質の管理強化

化学物質マネジメントシステムの構築

### (3) 環境対策の強化

① 環境マネジメントシステムの拡大統合(ISO14001)  
2012年度までに国内グループ会社へ適用範囲拡大

② 事業所・事務所 省エネ活動の推進

③ 環境啓発活動の推進

### (4) 環境コミュニケーションの推進

① 社外コミュニケーションの活性化:地域環境活動への参加、ステークホルダーとの対話等

② 従業員・家族の環境意識高揚:環境家計簿の普及活動

## 2009年度環境目的・目標の達成度

#### 明電グループ環境目的・目標の達成状況

| 環境目的                             | 2009年度目標                             | 2009年度実績 | 評価 |
|----------------------------------|--------------------------------------|----------|----|
| <b>1.地球温暖化防止の推進</b>              |                                      |          |    |
| (1)事業活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減 | 売上高CO <sub>2</sub> 原単位26%削減(1990年度比) | 15%削減    | ×  |
| (2)低公害車導入の推進                     | 低公害車10台/年 導入                         | 14台/年導入  | ○  |
| <b>2.廃棄物3Rの推進</b>                | 廃棄物リサイクル率97%                         | 95%      | ×  |
| <b>3.化学物質対策の推進</b>               |                                      |          |    |
| (1)VOC放出量削減                      | VOC放出量 20%削減(2000年度比)                | 34%削減    | ○  |
| <b>4.環境配慮設計の推進</b>               |                                      |          |    |
| (1)グリーン製品の拡大                     | 新製品グリーン化率50%                         | 52%      | ○  |
| (2)グリーン調達の推進                     | グリーン調達率 60%(東京地区含む)                  | 57%      | ×  |
| <b>5.環境マネジメントシステムの強化と統合</b>      | ISO14001支社支店への適用範囲拡大                 | 支社支店へ拡大  | ○  |

### 基本方針

#### (1) 環境ビジネスの展開

##### ① 環境貢献事業の拡大

- 再生可能エネルギーの拡大に貢献する事業:太陽光・風力発電関連製品、系統安定化システム、および将来エネルギー(太陽熱、地熱、バイオガス等)の実用化検討
- 省エネルギーに貢献する事業:地産地消製品(発電・蓄電・消費サイクル自己完結)の開発、回生エネルギー活用インバータ、EV/HEVモータ、インバータ、スマートグリッド、BEMS\*等 \*BEMS:Building Energy Management System
- 水・空気・地の環境保全に関する事業:上下水道システム、高度浄水処理システム、上水膜ろ過システム等

#### (2) 環境配慮型製品の開発

##### ① LCA(ライフサイクルアセスメント)の推進

適用製品の拡大、データベースの構築、環境配慮設計の推進

# 環境ビジネスの推進

長年にわたり培ってきた技術と経験を活かし、「より豊かな未来社会の実現」のため、社会に広く活用していただくことが重要であると考え、環境ビジネスを展開しています。

## 環境ビジネスの展開(電力供給の安定化技術への挑戦)

太陽光発電をはじめとする自然エネルギーの普及に伴って、出力変動による電力品質に与える影響など技術的課題がありますが、当社ではさまざまな実証実験に参画し、課題解決に向けて取り組んでいます。



ラオス国ボンサリー県マイ郡の風景



中国浙江省杭州市の太陽光システム

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)より、沖縄電力株式会社が委託された実証事業の再委託として、2007年より太陽光発電システム等出力安定化制御技術実証開発(PV+小水力+キャパシタ)をラオス国ボンサリー県マイ郡にて実施しています。

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)より、清水建設株式会社が委託された実証事業の再委託として、2007年より3年間、太陽光発電システム等高度化系統連系安定化技術国際共同実証開発事業を中国浙江省杭州市にて実施しました。

## 2009年度に登録されたグリーン製品例

開発部門が製品開発終了時に、明電グループ「グリーン製品設計ガイドライン」に沿って評価を行い、一定の基準に合格した製品を「グリーン製品」として認定しています。

### 電力会社向け変圧器保護継電装置



- 変圧器の一次側および二次側の電流を監視し、短絡事故時には瞬時に事故を遮断する信頼性の高い2系列の保護装置。
- 高性能CPU採用によりCPU基板を削減し、消費電力は従来装置の50%削減。
- 集積化回路の採用により部品点数を削減し、故障率は従来装置の25%削減。

### 電力会社向け66/33.22kV変電所用保護継電器



- 2重化構成による高信頼性の電力対応製品。
- 集積回路の採用により部品点数を削減して小型(薄形)化、モールドケース適用による軽量化を実現。

### 電力会社向けJ-PAC(受電切替)装置



- 受電回線、予備回線の電圧の有無および6kV母線全停を条件として受電線の切替を自動で行う。
- 機能アップをしつつ、消費電力・盤重量の低減による環境対策を実施。

### V-tactor PM200/PM400

- 幅700mm、高さ2350mm、奥行き1300mmのコンビネーションスターターで5段積み可能。(容積は当社従来製品の40%、5段実装時)
- 永久磁石を利用した電磁石の採用で、コイルの保持電流を抑えて省エネ。
- 駆動部は各相独立構造により、万が一のV1溶着などの“どうにもならない故障”に対しても、IPMAT-MIによる異常検出で、健全相をOFFし“止められない”を防止。



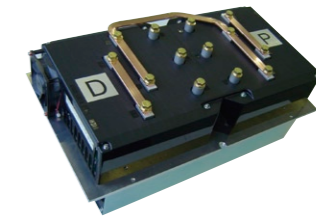
### スイッチングハブ Meisway SW900 (GbE対応スイッチングハブ)

- レイヤ2インテリジェントスイッチングハブとして各種プロトコルに対応。
- 主力製品であるSW800の後継機種として開発、10倍の性能を約1.2倍の消費電力で実現。(当社比)
- RoHS指令に対応。



### バッテリーフォークリフト用中容量ACモータコントローラ

- 2/3t系バッテリーフォークリフトの走行、荷役ACモータを制御。
- コンパクトな主回路モジュールを採用し、シンプルな構成で部品点数を約50%削減し、20%以上小型、軽量化。
- 個別運行制御により、マスターコントローラが不要、コスト低減を実現。



### 250kW太陽光PCS「SP300-250T」

- チョッパ方式の採用と最適設計により、直流入力電圧範囲を従来のDC225V～500VからDC225V～600Vに拡張しつつ、変換効率96.5%を達成。また低出力領域(30%以上)でも変換効率95%以上を達成し、幅広い領域で高効率運転が可能。



### エレベータ用インバータ「VT240EL」

- 冷却フィンの形状の最適化により冷却性能を38%向上させ、体積で41%の小型化を実現。また、現行12kgを5kgに軽量化。
- 現行91品種に対し、68品種に部品点数を削減。
- RoHS指令に対応。



### 電源回生コンバータ CV240S

- PWM制御方式は、インバータから発生する高調波電流を大幅に低減。(高調波ガイドライン、IECの高調波規格に準拠)
- 回生機能により省エネルギーが可能。
- RoHS指令に対応。



### 水力発電所向けシステムおよび電源二重化全機能一体形制御保護装置

- シーケンサ業界最小のユニットを採用し、容積従来比80%を実現、重量も80%減の軽量化。
- 従来のシーケンサ消費電力150Wに対し、46.2Wという低負担。
- 電子部品の信頼性向上により、推定寿命・耐久年数が従来品の5.8年に対し18.2年となった。



# 地球温暖化防止に向けた活動

小さなことだとしても、一人ひとり、一つ一つの心がけが地球環境の改善につながります。明電グループは、より豊かな未来社会の実現に向けて、日々できることの実践に努めています。

## 環境設備投資

### 電力監視システムの導入

名古屋事業所の電力使用状況と料金をリアルタイムに閲覧して工場別、時間別の細かい単位で各工場へWeb配信表示を行い従業員の省エネ意識を高めています。また構内配置図を駆使し、グラフィック化することで見やすしたり、データ分析・解析ツールを装備したりすることで、見える化を実現しました。今後、データの分析・解析等によりCO<sub>2</sub>削減に期待が持てます。



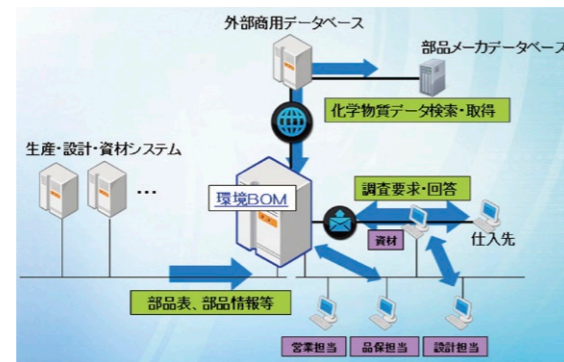
電力監視システムでの監視



監視システムの電力検出器

### 環境配慮設計基盤の構築

欧州を起点に製品含有化学物質規制(RoHS指令、REACH規則、ELV指令、化審法など)が世界的に広がり、さらに規制は強化されています。また、製品に対する環境配慮の要求(カーボンフットプリント、エコライフ、ErP指令など)は強まる傾向です。製品含有化学物質規制と環境配慮の要求に対応するため、環境配慮設計基盤(環境BOM)を導入しました。化学物質および環境負荷データベースの構築と拡充を行い、グリーン製品の設計、開発に努めます。



環境BOMシステム構成 ※BOM:Bill of Materialで部品表のこと。

## 環境教育

### 2009年度新入社員教育

階層別環境教育の一環として、新入社員研修の中で、環境の重要性や明電グループの環境への取り組みをはじめ、新入社員に期待する環境意識向上をねらって教育を実施しています。グループ会社も含め明電グループとして、63名が受講。教育資料は誰もが閲覧できるように、イントラネットにおいて掲載しています。



新入社員教育

### 環境教育(環境月間)

6月9日、10日、沼津事業所において一般従業員を対象に、環境マネジメントシステムの概要について環境教育を実施しました。両日で163名が受講。環境マネジメントシステムISO14001の概要について理解していただきました。



環境教育

## トピックス

### ノーカーデーの実施

今年も、環境月間行事の一環としてCO<sub>2</sub>排出量の削減を目的に、恒例となっているノーカーデーを実施しました。

自動車やオートバイ通勤者には、よりCO<sub>2</sub>排出量の少ない、公共交通機関等へ乗り換えての通勤をお願いし、前日比で72%減と、大幅な成果を上げることができました。



ノーカーデーの駐車場状況



通常日の駐車場状況

### 産廃知事褒章受賞

5月29日、沼津事業所が「産業廃棄物適正処理推進功労者に対する知事褒章」を受章しました。これは産業廃棄物の適正処理推進に貢献し、他の模範となる功績を挙げた法人・団体・個人に贈られるもので、沼津事業所はこれまでの活動(ゼロエミッション達成とエポキシ樹脂廃棄物の再利用)が評価されました。

ゼロエミッション<sup>\*</sup>の具体的な目標は各社で異なりますが、沼津事業所は埋立て・焼却廃棄物を削減して全廃棄物のリサイクル率99%以上を達成しました。



産廃知事褒章

<sup>\*</sup>ゼロエミッション:国連大学が提唱しているコンセプトで、産業から排出されるすべての廃棄物や副産物が、他の産業の資源として活用され、全体としていかなる形の廃棄物を生み出さない統合化された生産を目指すとするプロジェクトのこと。

### 7万kWhのグリーン電力を導入

明電興産(株)では2005年にバイオマス発電業務委託契約を日本自然エネルギー株式会社と締結し、2010年3月で契約終了しました。名古屋支店では自立・介護用リフトのレールシステム(パートナーシリーズ)を製作するために、このグリーン電力を使用し、約7万kW、25t-CO<sub>2</sub>を削減することができました。



レール製作

詳しい内容はWebサイトでご紹介しています。

CSRの取り組み > 環境への取り組み > 環境トピックス  
<http://www.meidensha.co.jp/pages/corp02-csr/corp02-02-02.html>

### PCB使用機器の廃棄処分推進

沼津事業所では、PCB特指法にもとづき、1972年より40年近く倉庫に保管していたPCB使用機器の廃棄処分を2008年度から開始しました。

2009年度は変成器、トランス、リアクトル等を17台、計5回の輸送で日本環境安全事業(株)・豊田事業所へ搬入し処分しました。



PCB使用機器の搬出

### 環境社会検定試験(eco検定)の受験推進

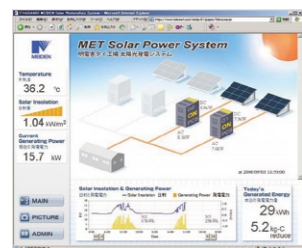
従業員の環境意識向上を目指して、東京商工会議所が主催する環境社会検定試験(eco検定)の受験を推進しています。明電グループではこれまでに、75名が合格し、エコピブル(環境問題を意識して日常生活をおくるとともに、一人ひとりが可能な範囲で行動を起こしていく人)として活躍しています。また、検定受験者を対象に、「エコピブル増員のためのアンケート」を行いました。アンケートの結果、「試験を受験したことで、マイバッグを持参して買物をするようになった。」という声や、「たくさんの方が受験する事で、仕事へも反映させていけるのでは。」という声が寄せられました。今後も、環境社会検定試験(eco検定)の受験を推進し、グループ全体の環境意識向上へつなげていきます。

## 地球温暖化防止に向けた活動

### METの太陽光発電の運用

メイデンエレクトリックタイランド株式会社(MET)バンハイン工場では、2007年4月に設置した20kW太陽光発電設備にて、年間2万kWh以上の発電を行い、年間約11t-CO<sub>2</sub>の削減に貢献しています。10kW太陽電池パネル2セットにより構成されており、明電舎製PCS“SUNGENE”により交流に変換され、瞬間最大発電電力20kW・日平均80kWhの能力があります。太陽光にて発電した電力は常時電力会社と連系し、全ての情報はTELEMOT装置を介して明電舎サーバで監視しています。

パネル下は駐車場として利用するとともにロビーに設置した専用の監視パネルにて当社の環境エネルギーへの取り組みが見学できます。



監視画面



太陽光パネル

### 環境標語募集

毎年6月の環境月間に、環境意識向上のため従業員に対し環境標語を募集しています。2009年度の応募者数は、2008年度の280名から大幅増の440名となりました。優秀作品については、下記の通りです。

#### 2009年度環境標語優秀作品一覧

| 氏名    | 作品                            |
|-------|-------------------------------|
| 島田 定也 | 温暖化 怖いあなたの 無関心                |
| 渡邊 秀隆 | 見直そう！ 不便も楽しむ エコライフ            |
| 永嶋 浩美 | 出来るかな あなたの生活 エコ自慢             |
| 荒井 直巳 | 地球の命限りあり みんなで持とう eco 意識       |
| 加勢 善博 | 誰にでも 何時でも何処でも 出来るぞ、エコ活動       |
| 末吉 宏  | 涼しいで かりゆし 甚平 エコ羽織             |
| 大橋 延年 | CO <sub>2</sub> 減らして 守ろう 緑の地球 |
| 鶴見 昇  | 明日のエコでは間に合わない！ 環境破壊まったなし！     |
| 野村 拓之 | いつもより 五分早く 家を出て エコドライブで ゆとり出勤 |
| 鈴木 良雄 | 孫の手に そっと手渡せ 緑の地球。             |

### ライトダウンキャンペーンへの参加

明電グループでは、環境省地球温暖化対策課と全国地球温暖化防止活動推進センターからの呼びかけで「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」に参加し、6月19日(金)～21日(日)と7月7日(火)の4日間、各地のネオン看板など7箇所を終夜消灯してCO<sub>2</sub>削減に協力しました。



(五反田) 明興ビル屋上ネオン看板消灯中



(五反田) 明興ビル屋上ネオン看板点灯時

### 建設現場の省エネ・省資源活動

プラント建設部では現場の省エネ・省資源活動として種々の対策を実施しています。

#### (1) 遮熱シートまたは遮熱塗料の使用例

屋根の部分に遮熱シートまたは遮熱塗料を施工して事務所内の温度上昇を抑え、空調機の電力を節減しています。



遮熱シート施工例



遮熱塗料施工例

#### (2) 風力、太陽光発電の導入

風力、太陽光発電システムを現場事務所に導入し、コンセント電源に使用しています。

#### (3) バイオトイレの採用

浄化槽(微生物による自己完結型完全循環システム)が付属しており、汲み取り不要の環境に配慮したトイレです。



バイオトイレの採用

## 事業活動に伴う環境負荷の全体像

明電グループでは、環境保全に貢献するため、環境負荷の少ない事業活動に努めています。また、環境保全のためのコストを把握し、効率的な活動を行っています。

### INPUT

| エネルギー | 国内     | 海外                |
|-------|--------|-------------------|
| 電力    | 47,346 | 5,092 MWh         |
| 燃料油   | 1,724  | 62 kl             |
| 燃料ガス  | 1,896  | 5 千m <sup>3</sup> |

| 水    | 国内    | 海外      |
|------|-------|---------|
| 水道水  | 57    | 18 kton |
| 工業用水 | 129   | — kton  |
| 地下水  | 1,189 | — kton  |

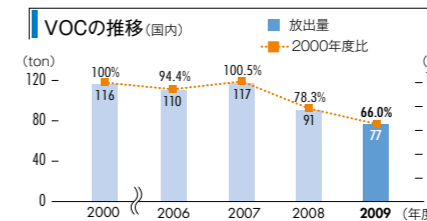
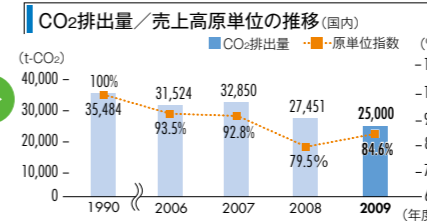
| 化学物質 | 国内      |
|------|---------|
| VOC  | 424 ton |

| 温室効果ガス          | 国内     |
|-----------------|--------|
| SF <sub>6</sub> | 250 kg |

※海外とは、MSL、MET、DME、M2E、MHDの5社です。

### OUTPUT

| 大気放出            | 国内                       |
|-----------------|--------------------------|
| CO <sub>2</sub> | 25,008 t-CO <sub>2</sub> |
| VOC             | 77 ton                   |
| SF <sub>6</sub> | 154 kg                   |



①CO<sub>2</sub>排出量とVOC放出量については、分社化した会社を除き、また合併した会社を加えるなど、過去に遡り一部見直ししました。  
②また、2009年度の電力排出係数は電事連全国平均目標値0.34 t-CO<sub>2</sub>/MWhを使用しています。

| 物流                | 国内                      |
|-------------------|-------------------------|
| 製品重量              | 56,882 ton              |
| 輸送CO <sub>2</sub> | 1,322 t-CO <sub>2</sub> |

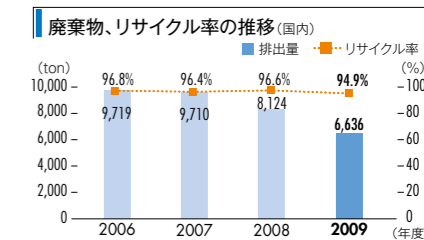
| 公共水域放出 | 国内    | 海外      |
|--------|-------|---------|
| 排水     | 1,119 | 18 kton |
| BOD    | 3,769 | — kg    |

#### CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量

- 明電グループではエネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスの中で、特に温室効果の高いSF<sub>6</sub>ガスについては、大気放出量の削減活動を実施してきました。
- 2009年度はSF<sub>6</sub>以外の温室効果ガス(CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>O、HFC、PFC)について試算しました。今後はこれらの温室効果ガス削減についても取り組んでいきます。

| 分類                        | 大気放出量 (t) | CO <sub>2</sub> 換算量 (t-CO <sub>2</sub> ) |
|---------------------------|-----------|--|
| メタン (CH <sub>4</sub> )    | 1.3       | 33                                       |
| 一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O) | 0.15      | 45                                       |
| 六ふつ化硫黄 (SF <sub>6</sub> ) | 0.15      | 3,700                                    |
| ハイドロフルオロカーボン類 (HFC)       | 0.0       | —  |
| パーフルオロカーボン類 (PFC)         | 0.0       | —  |

| 廃棄物    | 国内    | 海外      |
|--------|-------|---------|
| 非リサイクル | 336   | 247 ton |
| リサイクル  | 6,300 | 265 ton |



### 環境会計

研究開発コストとして、環境BOM(化学物質管理ツール)に設備投資しました。また、管理活動コストについては、明電舎のISO取得範囲拡大に費やしました。

#### 環境保全コスト

単位：百万円

| 分類         | 投資額  | 費用額   | 主な取り組み内容  |
|------------|------|-------|---|
| 事業所エリア内コスト | 11.9 | 200.4 | 公害防止、地球環境保全(省エネルギーなど)、廃棄物処理、資源循環コスト                             |
| 公害防止コスト    | 2.9  | 16.3  | 環境設備の維持・管理、ダイオキシン規制対策、騒音・振動・悪臭防止活動                              |
| 地球環境保全コスト  | 6.6  | 26.5  | 各種省エネ機器新規導入、照明の省エネ、電力モニタの導入および運用、屋根の断熱対策推進、空調設備の省エネ             |
| 資源循環       | 2.5  | 157.6 | 廃棄物別リサイクル推進、収集作業合理化推進、産業廃棄物の処理、保管、管理活動                          |
| 上・下流コスト    | 0.0  | 20.0  | グリーン調達活動など  |
| 管理活動コスト    | 0.4  | 204.2 | 従業員への環境教育のためのコスト、ISO関連費用、環境負荷の監視測定費用、環境マネジメントシステム運用コスト、事業内緑化コスト |
| 研究開発コスト    | 34.9 | 1.8   | 環境配慮製品の研究開発の推進  |
| 社会活動コスト    | 0.0  | 12.5  | 地域への環境に関する協力、地域の企業との交流会参加、事業外の清掃、草刈り、ゴミ拾い                       |
| 環境損害対応コスト  | 0.0  | 0.0   |   |
| 合計         | 47.2 | 438.9 |   |

# お客様とともに歩む

「お客様の安心と喜びのために、お客様からのご要望・課題を把握し、品質の高い製品・サービスを通じて、お客様の課題解決や夢の実現のお手伝いを進めていく」。明電グループが、お客様から信頼され、頼りにされる存在になるために、この実践に取り組んでいます。

|                            |  |
|----------------------------|--|
| <b>2009年度<br/>注力した取り組み</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>① お客様ニーズ収集情報の活用</li> <li>② 材料分析技術の強化</li> <li>③ 品質向上に向けた取り組み</li> </ul> |
|----------------------------|--|

## お客様の声を製品・サービスへ活かすための取り組み

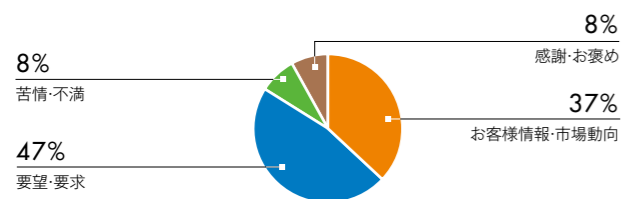
### お客様ニーズ収集活動の展開 ①

お客様からご提供いただいた情報やご要望、ご不満、市場動向等を「お客様のニーズ」として収集・分析し、ソリューション提案、新製品開発、サービスおよび各種改善活動などの具体的な行動に結びつける活動を展開しています。

お客様と接点のある開発・営業・技術・生産・現地工事・メンテナンス部門において、部門ごとに活動状況の振り返りと評価項目、次期への計画をまとめ、活動結果を自己評価しながら活動のレベルアップを図っています。

2009年度は、5,500件を超える情報が集まり、具体的な製品への展開、業務内容の改善に活用しました。今後もお客様に満足いただける製品・サービスの提供に結びつけていきます。

■ 情報分類構成比グラフ (2009年度データ)



### お客様窓口(カスタマーセンター)対応サービスの質的向上の推進

カスタマーセンターでは、365日24時間常駐によるお客様窓口体制を整備し、お客様からの受付対応、担当部門との連携によるタイムリーな対応を行っています。2009年度は、この電話受付件数の増加にあわせ、さらに的確な受付対応をご提供するためにCTI (computer telephony integration) を導入しました。

また、電話受付のほか、受変電設備・風力発電設備(主に風車)などの遠方監視も実施しており、設備の障害発生時には現地のメンテナンス部門と連携を取り、設備の最適運用にも貢献しています。2009年度は、受変電設備など33箇所、風力発電設備83基の監視を行っています。



カスタマーセンター



ISMS認定

## 製品の安全性を確保するために

### 不具合未然防止への取り組み

2010年2月、新たに「環境材料分析センター」を設立し、製品の信頼性・安全性の基礎となる分析技術を強化する体制を整備しました。当社製品はさまざまな環境下で使用されており、製品の開発段階で部品・材料が設置環境に適合しているか評価を行い、不具合の未然防止に努めています。

当センターでは、「製品品質向上」「新製品創出」「環境へ

の配慮」の3本柱をもとに、製品の信頼性評価、劣化寿命診断を行い、さらに、近年、規制が強化されつつある環境規制への取り組みとして、RoHS指令等の製品環境規制有害物測定技術の整備にも積極的に取り組んでいます。



X線分析顕微鏡による材料評価

## 品質保証の取り組み

CSRの取り組み > 品質管理への取り組み  
<http://www.meidensha.co.jp/pages/corp02-csr/corp02-03.html>

|   |  |
|---|--|
| <b>社長品質方針</b>   | <b>基本方針</b>  |
| <b>「お客様の安心と喜びのために」</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① お客様の満足度を向上させるため、お客様の課題解決のパートナーとして、全員がお客様の生の声を聞き、ご要望を踏まえ迅速に行動する。</li> <li>② 製品・サービスの質(品質、納期、安全)、業務の質を向上するため、不良品を「入れさせない、作らない、出さない」活動を推進し、自らの業務の課題・問題点を把握して改革・改善に努め、全ての工程で品質を作り込む。</li> <li>③ 当社製品の社会的責任の重要性及び不良が経営に与える影響の大きさを一人一人が自覚し、決められたルールを守り、確実に業務を遂行する。</li> </ul> |
| <p>ものづくりの心を大切に、品質の高い製品・サービスをご提供することにより、お客様の課題解決をお手伝いし、お客様に喜んでいただくことを目指し、各種品質重点施策を確実に実行して成果に結びつける。</p> |  |

### 品質保証活動と品質に関するリスクマネジメント

当社では、上記の「社長品質方針」にもとづき、各部門で品質保証・品質向上のための取り組みを展開しています。

各部門では、関連する法令を遵守するとともに、ISO 9001品質マネジメントシステムをベースに、品質保証活動を展開しています。また、グループ各社も製造メーカを中心にISO9001品質マネジメントシステムを構築しています。これらの維持・向上のために、当社およびグループ各社において、日本電機工業会の講師により内部監査員を養成してスキルアップを図り、内部監査によるマネジメントシステムの徹底・ブラッシュアップを図っています。

また、リコール、PL(製造物責任)など、社会的な影響が大きい不具合に関しては、トップへの迅速な連絡と全社の総合力を上げた対応を実施し、お客様設備を短時間で復旧できるよう適切かつタイムリーに処置対応を行うよう努めています。

### 品質向上に向けた取り組み ③

#### ① 不良品を入れさせない、作らない、出さない取り組み

2009年度は、品質向上活動として、「不良品を社外から入れさせない」、「不良品を社内で作らない」、「不良品を社内から出さない」を重点テーマとして取り組みました。ビジネスパートナー(外注・購入先)との品質向上に向けた取り組み、社内での徹底的な試験によって、不良の芽を摘み取り、お客様にご迷惑をおかけしないことを目指して取り組んできました。また、日々の業務の中で発生する課題については、日々の改善活動を通して品質改善に取り組んでいます。

#### ② 役員による品質向上対策実施状況のフォローアップ

品質管理担当役員が、各部門の現場を巡回し、品質改善の取り組み状況、発生した不具合の再発防止対策の妥当性を現場で現物により確認し、品質改善の徹底を図っています。さらに、上記の「不良品を入れさせない、作らない、出さ

ない取り組み」の具体的な実施内容をフォローし、推進してきました。また、直接担当者と接することで、品質に対する意識の高揚を図っています。



役員によるフォローアップ

#### ③ グループを対象とした品質管理スキルの向上

従来、当社を対象としていた管理技術教育をグループ会社まで展開し、品質管理スキルの向上を図っています。



QC(品質管理)教育風景

#### ④ 貴重な経験(不具合)による未然防止・再発防止のレベルアップ

お客様にご迷惑をおかけした不具合を貴重な経験として学び、活用することにより再発防止・未然防止に取り組んでいます。真の原因究明のツールとして「なぜなぜ分析」を使い、ヒューマンエラーに対しては背後要因分析の強化により、根本原因の追求と、それをもとにした対策の徹底、分析を通じた各人への教育を推進しています。また、各部門での実施内容を紹介することで、全体のレベルアップを図っています。

#### ⑤ 信頼性シンポジウムの開催

FMEA・FTA等(故障要因分析手法)の管理技術、信頼性の確保、信頼性試験の効率化、故障解析の強化等、信頼性に関する管理技術の推進・普及をねらい、各部門の活動事例発表会を開催しています。1980年から開催し、2009年度で53回を迎えました。社長、役員、工場長、各部門代表者等約170名が出席しました。



信頼性シンポジウムの事例発表

# お取引先様とともに

明電グループでは、資材調達において、サプライチェーンCSR活動を行っています。明電舎のCSRと企業行動基準は、企業理念にもとづき定められていますが、事業活動全てのCSR項目について、お取引先様に明電舎の活動に準ずる活動をお願いしています。

2009年度  
注力した取り組み

- ① グリーン調達の推進
- ② グループ会社へのCSR調達活動の水平展開
- ③ お取引先様とのコミュニケーション強化

## パートナーとの持続可能な関係の構築

### 資材部の調達基本方針

#### 1. 調達基本方針

明電グループでは、調達基本方針をもって、お取引先様とのお取引をさせていただいています。

#### 2. 取引先選定項目

お取引先様の選定にあたり重視する項目を定めています。

#### 3. 取引先へのCSR推進のお願い

お取引先様に対して、当社のCSR活動をご理解いただくとともに、互いの企業価値を高め持続する成長を実現するために、CSR活動の推進にご協力をお願いしています。



企業情報 > 資材調達  
<http://www.meidensha.co.jp/procure/pages/top/index.html>

### CSR調達への取り組み

明電グループでは、CSR調達の一環として、2009年度に下記の取り組みを行いました。

(1) グリーン調達の推進(グリーン調達先の拡大、グリーン調達率の向上) ①

(2) グループ会社へのCSR調達活動の水平展開(調達基本方針等の策定・運用開始) ②



グループ会社への「サプライチェーンCSR活動について」の説明会

### お取引先様とのコミュニケーション ③

明電グループでは、お取引先様との関係作りのために、下記のような活動を行っています。

(1) Webサイトでの調達品の公募

当社Webサイトの「資材調達」に、「取引開始のご案内」と「取引申し込みフォーム」を開設し、広く調達先を求めて情報の収集を心掛けています。



企業情報 > 資材調達 > 取引開設の手続き  
<http://www.meidensha.co.jp/procure/pages/frame40/body1.html>

(2) お取引先様への生産計画説明会の開催

生産拠点である各事業所において毎年2回(期初)、主要お取引先様をお招きして、当社および各部門の事業状況と計画についての説明会を開催しています。

またその際に、当社資材調達に特段の優れたご協力をいただいたお取引先様については、選考の上、感謝の意を込めて表彰させていただいています。

### 今後の活動について

明電グループでは2009年度より「資材調達」をCSR推進体制に組み入れました。中期経営計画「POWER5」のもと、CSR調達の活動を強化していきます。

# 株主・投資家とともに

明電グループは、企業活動の透明性を確保し、お客様、株主をはじめとする投資家、地域社会等から正しい理解と信頼を得るため、企業情報をあらかじめ決められたルールに従い、適時に開示します。中でも株主・投資家の皆様に対しては良好な信頼関係を得られるよう、積極的な情報開示を基本としたコミュニケーション施策の実施に努めます。

## 情報開示とIR活動

### 情報開示方針

明電グループでは、企業行動規程で掲げる「企業活動の透明性を確保し、お客様、株主をはじめとする投資家や地域社会などステークホルダーから正しい理解と信頼を得るため、企業情報をあらかじめ決められたルールに従い、適時に開示する」という基本姿勢にもとづき、情報開示方針を明文化しています。以下のWebサイトからご覧いただけます。

企業情報 > 企業理念 > 情報開示方針  
<http://www.meidensha.co.jp/pages/corp01-prof/corp01-02-02.html>

### 決算説明会の開催

明電グループへのご理解を深めていただくために、年2回、決算説明会を開催しています。経営トップが自ら決算や経営戦略についてご説明し、機関投資家やアナリストの方々のご質問にお答えしています。同説明会でお配りした資料はWebサイトに掲載し、ご出席いただけなかった方々にもご覧いただいています。



### 機関投資家・アナリストとのコミュニケーション

2009年度は個別取材や機関投資家・アナリストのオフィス訪問などの回数が180件を超えました。さらなるご理解をいただくため、今後ご説明方法や資料の充実に積極的に取り組んでいきます。

### 各種IRツールによる情報開示

明電グループは、各種IRツールを通じて、株主・投資家の皆様との緊密なコミュニケーションを図っています。

株主様あてには毎年6月に「株主通信」、12月に「中間期株主通信」を発行し、半期ごとの決算情報や最新の会社トピックスをお届けしています。

また、海外投資家の方々に向けては、「アニュアルレポート」を年1回発行しています。

さらに、よりタイムリーな情報発信を行うため、IRサイトでは詳細な決算情報を随時公開しています。



アニュアルレポート



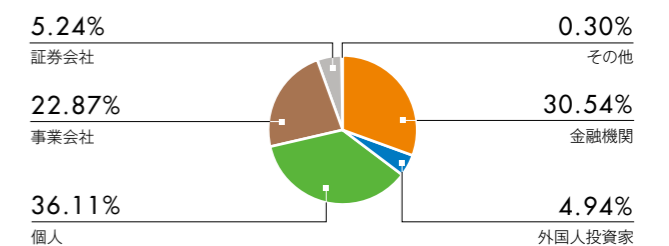
IRサイト



株主通信

IR情報 > IRライブラリー  
<http://www.meidensha.co.jp/pages/corp03-ir/corp03-03.html>

### 株主構成比率(平成22年3月31日現在)



# よりよい職場を目指して

公平・公正な雇用制度のもとに、明電舎の従業員一人ひとりがその持てる力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりを実践しています。

**2009年度注力した取り組み**

- ① 特例子会社の主要拠点展開による障がい者雇用の促進
- ② 階層別研修の充実
- ③ メンタルヘルス教育体系の整備

## 公平・公正な雇用

### 雇用に関する方針

属性(性別、学歴、年齢など)にかかわらず、個人の能力や意欲を尊重し、公平・公正に評価することを基本方針とします。

### 再雇用制度の運用

公的年金の改革関連法が2000年度より施行され、厚生年金の満額支給開始年齢が段階的に引き上げられることに伴い、2001年9月の定年退職者から雇用延長制度を導入しました。また、「高年齢者雇用安定法」の改正により、2006年4月以降の定年退職者から、継続雇用を希望

する者については、厚生年金の満額支給開始年齢までの再雇用制度を導入しました。

### 障がい者雇用への取り組み

活躍の場が少ない知的障がい者の働く場の創出に向け、特例子会社(明電ユニバーサルサービス株式会社)を設立し、以降、各地の製造拠点への支店展開等の拡大・拡充を進めて雇用の拡大を図っています。

#### 障がい者雇用率

|                    | 雇用率   |
|--------------------|-------|
| 2009年度<br>(6月1日時点) | 1.73% |
| 2010年度<br>(6月1日時点) | 1.95% |

## 人財の育成

### 人財育成の方針と多様な研修制度

当社は、下記の方針にもとづき社員として、社会人として、プロフェッショナルとして、従業員のさまざまな側面からの成長を促すための多様な研修制度を実施しています。

#### 人財育成方針

- ① 経営に必要な、利益に貢献できる人財を育成します。
- ② 各人が自らの可能性を発見し、ありたい自分に向けて仕事を通じて自己実現を図ることを目指すよう指導・支援します。

#### 主な研修制度

- ① 社会人としてのスムーズなスタートを支援するための新入社員研修・1年後フォローアップ研修
- ② 階層への登用者に必要な知識と考え方を伝える登用者研修  
※2009年度は、若手層への研修を新設しました。また、研修の実践力強化のため新任主任研修・新任役I研修にフォロー課題とフォロー研修を追加しました。
- ③ 従業員が自ら立てたキャリア目標に対して必要な知識・考え方を学ぶための、集合・通信教育による自主参加型目的別研修
- ④ 定年以降も含めた、人生全体を計画的に捉える視点を育てるためのライフプラン・キャリアデザイン研修
- ⑤ その他、技術・技能・営業等、部門それぞれのプロフェッショナルを育成するための部門別研修



研修(講義)風景



研修(実機操作)風景

## 働きやすい職場づくり

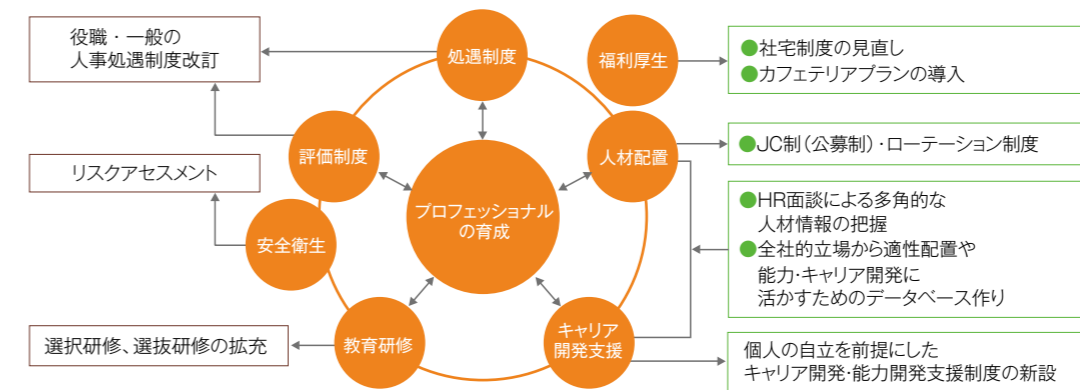
### 人事処遇に関する制度

労働環境の変化に対応して「競争力を持った企業体質の確立」および「成果にウェイトをおいた処遇」をコンセプトに、役職の人事制度を2001年4月に一般職の人事制度を2002年10月に改定しました。さらには、資格、昇進・昇格、昇給、賃金、労働時間、評価および賞与の各制度について、より従業員のモチベーションアップにつながるよう運用面の再整備を現在実施、展開しています。

#### 主な取り組みや制度

- ① HR(ヒューマンリソース)面談  
人財活用・キャリア開発支援の面からの新たな取り組みとして、2003年から従業員が人事労働部門の役職者と直接面談を行うHR(ヒューマンリソース)面談を実施しています。
- ② 自己申告面談  
上司が部下の考え方や要望を理解する目的で1年に1回実施しています。
- ③ 社内公募制  
業務遂行に必要なスキルを持った従業員を募り、異動(配置)させる社内公募制度を2002年に導入しました。これまでに4回の社内公募を実施し、合計22名の異動を行いました。
- ④ フェロー・マイスター制度  
卓越した技術や技能で会社に貢献している者に対し、管理職としてではなく高度専門職として特別な処遇を行う制度です。技術職については2008年4月に新設し、これまでにシニアフェロー2名、フェロー2名を任命しました。技能職については2008年10月に新設し、これまでにマイスター4名を任命しました。

#### 人事処遇制度見直しとの関係



### 出産・育児・介護への配慮

2003年7月に仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備を進めることを目的とした「次世代育成支援対策推進法」の成立を受けて、2005年4月から当社も行動計画の策定と届出を行い、行動計画にもとづく取り組みを実施しています。

### 人権啓発への取り組み

明電舎企業行動規準の中で掲げている「人権の尊重」の実現を目指し、明電グループ全体で、人権啓発活動に取り組んでいます。グループ従業員全員に向けての全社放映ビデオを利用して、職場の身近で起きうる人権問題に焦点を当てたストーリーをもとに、自分の職場や自分自身の考え方について改めて見つめなおしていただき、グループディスカッションを行うことによって意識の向上と共有を目指しています。

### 各種福利厚生制度

住宅関連をはじめとする、従来からの制度に加え、多様化する従業員個人のニーズにできるかぎり対応することを目的として、2002年度に「カフェテリアプラン」を導入しました。これらの制度については、より使いやすい制度とするため、労使で内容の見直しを検討・実施しています。

## 労働安全衛生

### 職場の環境づくり

当社企業行動規準の「安全で働きやすい環境の確保」を目指し、『安全は全てにおいて優先する』ことを徹底し、安全意識の高揚と災害の撲滅を図るとともに、職場環境の整

備を進めています。また衛生面では、メンタルヘルス教育体系を整備し、従業員の健康づくりを推進しています。



メンタルヘルスの新入社員教育



# 地域の皆様との良好なコミュニケーション

大正7年に当社創業者重宗芳水の妻・二代目社長重宗たけが、私財を投じて工場のあった大崎(東京都品川区)に小学校を設立した志を受け継ぎ、明電グループは地域・社会の皆様との積極的な交流を通じて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

## 明電グループ社会貢献活動方針

- 1 本業である電気・機械製品の製造販売業を軸として、社会の持続可能な発展に貢献します。
- 2 企業活動を支援いただいている地域社会に感謝し、地域の発展に寄与する社会貢献を実施します。
- 3 グループの役員・従業員が主体的に取り組む社会貢献活動を支援します。

## 美化 BEAUTIFICATION

### 地道な奉仕活動が表彰されました[太田]

環境美化の奉仕活動が太田市から表彰されました。

明電ユニバーサルサービス(株) 滝沢さちえ



### 幼稚園に花の苗をプレゼント



幼稚園に花苗をプレゼントしました。明電ユニバーサルサービス(株)

### 海岸清掃[沼津]



沼津事業所では、近隣企業および近隣小学校・幼稚園とともに、海岸の清掃活動を行いました。

### 標語コンクールで入賞[太田]



太田市の「環境を守ろう」をテーマにしたポスター・作文・標語コンクールで金賞を受賞しました。  
動力計測システム工場 山尾 芳弘:「ありがとう地球にエコで恩返し」

### チャレンジ! エコライフに参加しました[沼津]

沼津事業所では2010年1月~2月の2か月間沼津市主催「チャレンジ!エコライフ」に参加しました。



### 地域の環境行事に出展[沼津]



沼津市が主催する「ごみを楽しみながら拾い、楽しみながら環境について考える」環境行事「フェスタ・コスト・デル・ゴミ IN 千本浜」に協賛しています。

### 地域貢献活動の展開



エンジニアリング事業部 東北サービス部は、近隣の工業団地組合の清掃活動や工業団地内の巡回パトロールを実施しています。

詳しい内容はwebサイトでご紹介しています。

CSRの取り組み > 社会貢献  
<http://www.meidensha.co.jp/pages/corp02-csr/corp02-05.html>

## 学び STUDY

### 「ものづくり教室」「ふれあい音楽教室」を開催

小・中学生を対象に「ものづくり教室」と「ふれあい音楽教室」を開催しました。



山梨県中央市立玉穂南小学校にて



沼津市立第一小学校より「ものづくり教室」のお礼が沼津事業所に届きました。

### 小学校で特別授業開催



東京都品川区芳水小学校で特別授業を開催。電気自動車の歴史や、構造・しくみについて講義を行いました。

### 地元の工業高校の生徒のインターンシップ[甲府]



工業高校の生徒が(株)甲府明電舎でインターンシップ(職場入社)を体験しました。

### 山梨県医師会様 工場見学[甲府]

山梨県医師会の先生に、産業医実地研修会のカリキュラムの一貫として、(株)甲府明電舎の工場をご見学いただきました。



### 校外学習の受け入れ



明電グループは校外学習の受け入れを積極的に行っています。

## ふれあい TOUCH

### 消火競技会に参加

名古屋事業所では、西春日井郡危険物安全協会主催の消火競技会に参加しました。



### 千本浜ファミリーマラソン大会に協賛



沼津市教育委員会が主催している千本浜ファミリーマラソン大会に協賛。完走者にチュリップの球根をプレゼントしました。

### しながわ夢さんばしに出展

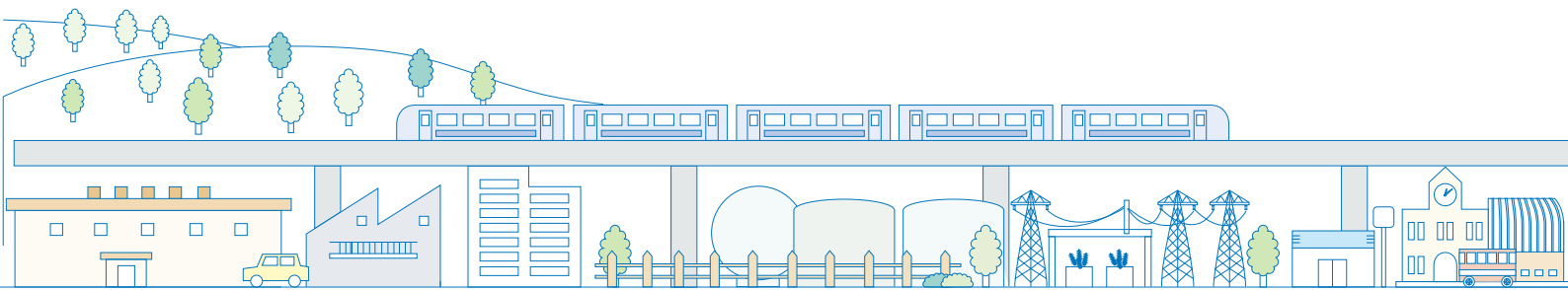


大崎駅周辺地域イベント「しながわ夢さんばし」に出展しました。

### i-MiEVを奈良県「平城遷都1300年祭」へ



当社に導入した電気自動車i-MiEV(アイミーブ)のうち1台を2010年12月末まで、奈良県「平城遷都1300年祭」へ貸し出しています。



株式会社 明電舎

〒141-6029 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower  
www.meidensha.co.jp

